

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第1区分

【発行日】平成16年9月16日(2004.9.16)

【公開番号】特開2002-107214(P2002-107214A)

【公開日】平成14年4月10日(2002.4.10)

【出願番号】特願2000-299602(P2000-299602)

【国際特許分類第7版】

G 0 1 G 21/24

G 0 1 G 7/04

G 0 1 G 21/16

【F I】

G 0 1 G 21/24 Z

G 0 1 G 7/04

G 0 1 G 21/16

【手続補正書】

【提出日】平成15年9月5日(2003.9.5)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0040

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0040】

そして、レバー4の固定部30はレバー固定部22の固定側22aに固定され、レバー4の可動部32aはレバー固定部22の可動側22bに固定される。

固定後、レバー4のブリッジ29を切断する。切断は、ロバール機構2の正面、及び裏面側に貫通形成された中空部16及びブリッジ切断用穴17から切断用の治具(例えばペンチ等)を用いて正面、裏面側から計4カ所のブリッジ29a、29bを切断する。この切断により、レバー4の可動部32が移動可能(測定可能)となる。なお、図9においてブリッジ29a、29bは便宜上、点線で記載した。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0044

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0044】

可動部14の下降に連動して、レバー4の可動部32aが同様に下降する。可動部32aが下降すると、バネ部34(支点A)を中心として可動部32bがZ2方向に上昇し、レバー4の自由端4b(可動部32c)はバネ部34(支点B)を中心としてZ3方向に上昇する。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0049

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0049】

平衡駆動手段6はレバー4の自由端4b(コイル6b)側が高さ方向に移動し、固定の磁石体6aとの相対位置に基づきレバー4の平衡位置を検出するものであるため、コイル6b側の高さ位置の変動及び傾きが生じると同じ移動量を得るために必要な制御電流が変わ

る影響が生じる。しかし、上記構成によれば、固定面 4 b a (コイル 6 b) の面位置が高さ方向に対し不変であるため、平衡駆動手段 6 によりレバー 4 を平衡位置に移動させるための制御電流は変わらず、駆動特性を一定に維持できる。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図9】

